

報道機関各社 様

ダニ媒介脳炎患者（国内6例目）の発生について

6月24日、市内医療機関より、ダニ媒介脳炎患者発生の届出がありましたのでお知らせいたします。本件は、国内6例目（いずれも道内）の発生となります。

北海道内では毎年、ライム病、回帰熱を含めたマダニが媒介する感染症の発生報告があります。札幌市保健所では、引き続きホームページ（<http://www.city.sapporo.jp/hokenjo/flkansen/f33madani.html>）等を通して、ダニに咬まれないための対策や、咬まれた場合の対応について、市民の皆さまに呼び掛けていきます。報道機関の皆さまにおかれましても、周知へのご協力をよろしくお願いいたします。

1 本事例の概要

(1) 患者の年齢等

市内在住、50歳代、男性

(2) 患者のダニ刺咬歴

有り

(3) 患者の症状

発熱、麻痺、意識障害、痙攣、髄膜炎、脳炎、筋力低下

(4) 経過

- ・ 5月中旬 道央圏域で山菜採りを行い、ダニに脚部を咬まれた。
- ・ 5月23日 発熱、四肢のしびれなどの症状を発症。
- ・ 6月6日 ダニの刺咬歴・臨床症状などから医師がダニ媒介脳炎を疑い、医療機関が札幌市保健所に連絡。北海道立衛生研究所で検査実施。
- ・ 6月24日 検査の結果、陽性と判明。
医療機関が札幌市保健所に発生届を提出。

※患者のプライバシーの保護のため、提供資料の範囲内での報道をお願いいたします。

2 ダニ媒介脳炎の発生状況

区分	1例目	2例目	3例目	4例目	5例目	6例目(本事例)
届出受理年月	平成5年	平成28年 8月	平成29年 7月	平成29年 8月	平成30年 5月	令和6年 6月
届出受理 保健所	渡島 保健所	札幌市 保健所	市立函館 保健所	札幌市 保健所	旭川市 保健所	札幌市 保健所
年代・性別	30歳代 女性	40歳代 男性	70歳代 女性	70歳代 男性	40歳代 女性	50歳代 男性
感染推定地域	道南圏域	不明	道南圏域	道央圏域	道北圏域	道央圏域
その他	-	死亡	死亡	-	-	-

3 ダニ媒介感染症の概要、予防方法、咬まれた場合の対応について

別紙のとおり

<問い合わせ先>保健福祉局保健所感染症総合対策課 畠山、森
電話：622-5199、FAX：622-5168

ダニ媒介感染症について

1 北海道のマダニが媒介する感染症

マダニは、森林や草地など屋外に生息する比較的大型（成虫の体長 3～8mm 程度）のダニで、生息場所に近づいた動物や人に寄生し吸血します。ダニ媒介感染症の原因となる病原体を保有していることがあり、咬まれると感染することがあります。北海道内では、ライム病、回帰熱、ダニ媒介脳炎の患者が確認されています。なお、これらの感染症は、通常、人から人に感染することはありません。

病名	潜伏期間	主な症状
ライム病	12～15 日程度	発熱、倦怠感、慢性遊走性紅斑 等
回帰熱	7～10 日程度	発熱（39℃以上）、筋肉痛、関節痛、倦怠感 等
ダニ媒介脳炎	7～14 日程度	発熱、筋肉痛、麻痺、意識障害、痙攣、髄膜炎、脳炎 等

2 主なダニ媒介感染症の発生状況（届出数） ※R6 は第 24 週（6 月 16 日）まで

(1) ライム病 (人)

区分	R1	R2	R3	R4	R5	R6
北海道	13	24	20	9	17	3
札幌市(再掲)	4	2	5	1	2	0
他都府県	4	3	3	5	11	3

(2) 回帰熱 (人)

区分	R1	R2	R3	R4	R5	R6
北海道	7	15	10	25	23	5
札幌市(再掲)	1	2	0	0	0	0
他都府県	0	0	0	0	0	0

3 予防方法

- ・マダニに咬まれないようにすることが最も重要です。
- ・草の茂ったマダニの生息する場所に入る場合には、長袖、長ズボン、足を完全に覆う靴（サンダルのような肌を露出するようなものは避ける。）、帽子、手袋を着用し、首にタオルを巻くなど、肌の露出を少なくすることが大切です。
- ・虫よけ（忌避剤）の併用も効果が期待されます。

4 マダニに咬まれた際の対応について

野外活動後は入浴し、マダニに咬まれていないか確認すること、マダニの咬着（咬みついたまま皮膚から離れない状態）が認められた場合は、無理に自分で引っ張ったりせずに、ただちに皮膚科などを受診し、マダニの頭部が残らないように除去してもらうことが重要です。

また、マダニに咬まれた後、数週間程度は体調の変化に注意し、発熱等の症状が認められた場合は内科などで診察を受けてください。